

教養学部 教養学科 超域文化科学分科 比較文学比較芸術コース

本コースの特徴

本コースの何よりの特徴は、文学と芸術を主たる研究対象としていることです。例えば、人間が生み出した一篇の詩、一枚の絵、一つの楽曲には、それ自体の尽きせぬ魅力とともに、文化の根源につながる通路が埋め込まれています。比較の視点を重視しながら、文学と芸術の双方にまなざしを向けることによって、その基盤にある文化研究にじっくりと取り組みます。

比較研究とは

私たちの考える「比較」とは、文化の越境とジャンルの越境（時にはその両方の越境）を指しています。文化的な地域をまたいだり、ジャンルの垣根を越えたりすることで、今まで見えてこなかった視野が開けてきます。具体的な研究の方向を一覧にしてみましょう。

- ◆ 複数の文学・芸術間の影響受容関係の分析
- ◆ 複数文化の交流・交渉・葛藤などに関する歴史的な考察
- ◆ 「異文化」理解の今日的な倫理の構築
- ◆ 直接的な影響関係のない類似文化現象の比較検討
- ◆ 比較研究を意識しながら特定の文学、芸術、文化の研究

本コースでは、研究の基盤として、文学であれ芸術であれ、対象となる「作品」への実証的、歴史的な接近と分析を大事にしています。作品への深い興味に基づき、具体的な資料を用いて、その特質を丁寧に論じていくことを方法の基礎としています。

本コースの履修について

本コースでは、以下のようなカリキュラムが組まれています。本資料の末尾に履修モデルがあります。

- ◆ 資料・文献調査方法、比較研究の理論、調査研究実習、卒業論文演習。
- ◆ 外国文学および外国芸術を学ぶための、語学も含めた専門的基礎の習得。
- ◆ 外国文化を視野に入れた近代日本文学・芸術の幅広い研究。そのために必要な近世・近代日本文学や日本文化に関する知識の習得。
- ◆ 比較文化論へ拓いていく視野。

主な研究領域としては、近代以降の文学、美術（絵画・写真等）、音楽、映画などを想定していますが、サブカルチャーの研究も軽視していません。比較研究の基礎を学んだ上で、外国文学・芸術のみを研究対象としたり、日本に特化した研究もできます。

文学と美術、文学と音楽など、ジャンル間の垣根を低くし、複数の文学・芸術に触れる機会を提供するのも、本コースの特徴です。本コースでは、皆さんが興味を深く掘り下げ、的確に広げて、卒業論文制作へとつなげていく過程を重視しています。以下は先輩たちの研究テーマの例です。

【2024 年度】

- ・ 1935 年『フランス百科事典』の理想と現実—ピエール・アブラーム編第 16 巻・第 17 巻の分析を手掛かりに
- ・ 公的批判とショスタコーヴィチによる応答的作品 —交響曲第 5 番とオラトリオ『森の歌』における政治性の比較研究

【2023 年度】

- ・ 『新世紀エヴァンゲリオン』『エヴァンゲリオン新劇場版』論—自己物語化に失敗する語り手たち
- ・ 『ツバメ号とアマゾン号』における子どもと大人の関係性 —「原住民」とは誰か
- ・ 武満徹と〈日本的なもの〉—第二次世界大戦前後の日本音楽と西洋
- ・ C. S. ルイス『ナルニア国ものがたり』における「悪」と「美しい女性」—「外面的な美しさ」への警鐘

【2022 年度】

- ・ 挿絵本『艶なる宴』に見るバルビエの夢と理想
- ・ 手塚治虫『火の鳥』における亜人間の表象

卒業後の進路（就職・進学）について

卒業生は、国際交流関係、官庁、出版・放送・新聞・広告などのマス・メディア、図書館司書（国会図書館等）、教育関連分野、コンサルタント業界などで活躍しています。

本コースは大学院総合文化研究科超域文化科学専攻比較文学比較文化コースに直結しています。これは駒場キャンパスで最も古い研究室の一つであり、すでに半世紀以上の歴史と実績があります。詳細は比較文学比較文化研究室ウェブサイト（<http://fusehime.c.u-tokyo.ac.jp/index.html>）を参照してください。

大学院で研究を深めて、美術館学芸員、図書館司書、大学教員などを目指すことができます。すでにそのような分野で多くの修了生が活躍しています。

本コースへの進学を考えている皆さんへ

文学と芸術を愛し、じっくりと取り組んでみたいと思う方を歓迎します。まだ具体的にやりたいことが決まっていなくても、2年半のカリキュラムでテーマを見つけて、熟成させていきましょう。皆さんが「問題発見解決型」の知性を身につけ、一生の財産になるような作品や経験に出会えるように、私たちは願っています。

教員紹介

東京大学比較文学比較文化研究室ウェブサイトの「大学院担当教員紹介」のページに、詳しい情報を掲載しています。 <http://fusehime.c.u-tokyo.ac.jp/profs/index.html>

石原 剛 いしはら つよし

アメリカ文学・文化（小説、映画、児童文学、マーク・トウェイン）、比較文学・文化（日米比較）

伊藤 徳也 いとう のりや

比較文化論（近現代中国文学・美学、デカダンス・審美主義文化論）

今橋 映子 いまはし えいこ

比較文学・比較文化（近代日本文学・文化におけるパリ、〈パリ神話〉研究、日本近代美術批評史、ことばと絵画（写真）の相関関係、など）

及川 茜 おいかわ あかね

中国語圏諸文学、日中比較文学、マレーシア華語文学

越懸澤麻衣 こしかけざわ まい

音楽学（西洋音楽史、とくにベートーヴェン研究；日本における洋楽受容史）

Hermann Gottschewski ヘルマン ゴチェフスキ

音楽学（西洋音楽史、近代日本音楽史、音楽理論、演奏論）

佐々木悠介 ささき ゆうすけ

比較芸術（二十世紀フランス・アメリカ・日本の写真研究／文学と映画を中心としたアダプテーション研究）

佐藤 光 さとう ひかり

英文学、イギリス・ロマン主義文学、比較文学、イギリス児童文学、白樺派、民藝

實谷 総一郎 じったに そういちろう

フランス文学、比較芸術（文学、美術、思想）

寺田 寅彦 てらだ とらひこ

比較文化（テキストとイメージ論）・比較芸術（19世紀フランス文化・文学・芸術）

徳盛 誠 とくもり まこと

東アジア古典学/十八世紀日本を出発点とした比較文学比較文化研究

前島 志保 まえしま しほ

比較文学・比較文化（比較出版史、比較読書文化史、俳句の翻訳・受容研究）

松井 裕美 まつい ひろみ

近現代美術史（特に20世紀フランス）、比較芸術（20世紀美術と文学）

履修モデル

学期	2年 冬	3年 夏	3年 冬	4年 夏	4年 冬	卒業
必修科目	資料・文献調査法 研究する、文献を調査する、論文を書く、とはどのような作業なのか、を学びます。	比較研究の理論 比較文学、比較芸術、比較文化を研究するための方法論を修得します。	調査研究実習 この授業は「卒業論文演習」と連動して開講されます。卒業論文につながるような研究レポートの作成を目指します。	卒業論文題目発表会が開催されます。テーマを決めて、資料の収集を始めます。	(10月) 卒業論文中間発表会が開催されます。そろそろ目次が完成しているといいですね。 「卒業論文演習」思い出に残るような論文を書き上げましょう。卒業まであと一歩。	
選択必修科目	卒業要件を確認して、計画的に履修しましょう。 選択必修科目の柱は二つ ・テキスト(文学、芸術)を「読む」力をつける(「テキスト精読法」「芸術作品分析法」) ・文学、芸術、文化を深く学び、「語る」力をつける(その他の専門科目) 幅広い知識を身につけながら、卒業論文のテーマを探します。					
専門外国語科目	第1外国語と第2外国語の単位規定があるので、注意しましょう。					
学科共通科目	サブメジャープログラムを選ぶこともできます。					